

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	245	国際性に富む人材育成留学事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア			
担当部課名	企画部科学技術振興課 教育庁県立学校教育課	事業実施(予定)年度 平成 24 ~ 33 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)			
事業内容	国際性と個性を涵養し、グローバルに活躍できる人材の育成を図るため、高校生70名をアメリカ、欧州、アジア、オセアニア諸国へ1年間、大学生30名を海外諸国へ6ヶ月～2年間派遣する。また、アジア太平洋諸国とのネットワーク形成を図るため、ハワイ東西センターへ2名派遣する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】		25年度	25年度(繰越)	26年度	26年度(繰越)	27年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	171,690	—	197,032	—	223,245
		(b) 予算現額	157,007	—	197,032	—	223,245
		(c) 増減額(b-a)	▲ 14,683	—	0	—	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	157,007	—	197,032	—	223,245
	執行状況	B. 執行済額	144,976	—	191,168	—	180,908
		うち交付金充当額	115,980	—	152,934	—	144,726
		C. 次年度繰越額	0	—	0	—	0
		執行率(%) (B/A)	92.3%	—	97.0%	—	81.0%
予算の状況の説明	1. ハワイ東西センター 執行率は99.7%となっており概ね計画通りに予算執行ができた。 2. 1以外の事業 執行率81.0%であり、平成27年度派遣生の大学生等において ① 派遣年度内に大学からの合格が得られず、7名が派遣辞退者 ② 6名の派遣が遅れたことによる滞在費の減 ③ 授業料等の精算による執行残が不用額の主な要因						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	①高校生70名を1年間、アメリカ、欧州、アジア諸国へ派遣。 ②大学生等30名を修士課程、1年課程、6ヶ月課程で海外へ派遣。	目標	①高校生65人 ②大学生等15人	①高校生70人 ②大学生等30人	①高校生70人 ②大学生等30人	①高校生70人 ②大学生等30人	
		実績	①高校生65人 ②大学生等14人	①高校生70人 ②大学生等25人	①高校生70人 ②大学生等29人	①高校生70人 ②大学生等23人	
	③社会人等をハワイ東西センターへ2名派遣	目標	—	—	2名派遣	2名派遣	
		実績	—	—	2名派遣	2名派遣	
達成状況説明	①、②について ・平成27年度の大学生等の派遣は高校生70人と大学生等30人合わせて100名を派遣予定であったが、大学生等の派遣生の中から大学からの受け入れが得られず派遣を辞退した7名を除く93名の派遣となった。 ③について ・ハワイ東西センターへの派遣については、目標どおりに派遣することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(33年度)
	①(高校生)海外大学への進学や再度海外への留学を目指したいと考えている生徒の割合85%以上	目標	—	①高校生70%以上 ②大学生等70%以上	①高校生85%以上 ②大学生等85%以上	①高校生85%以上 ②大学生等85%以上	①高校生85%以上 ②大学生等85%以上
		実績	—	①高校生92% ②大学生等86%	①高校生88% ②大学生等100%	①高校生81.4% ②大学生等100%	—
	③ハワイ東西センターに派遣された社会人等についてコミュニケーション能力が向上したと実感できた者の割合85%	目標	—	—	50%以上	85%以上	—
		実績	—	—	100%	100%	—
	進捗状況説明	①、②について ・年度を跨ぐ事業であり、平成27年度は、平成25・26年度に派遣され、平成27年度に帰国した派遣生へ帰国後のアンケートを行った。そのアンケートでは、高校生について「再び留学したいと思う」と回答したものが、81.4%であった。また、大学生等についても振り返りからほとんどの派遣生が「留学の成果を今後の活動に活かしていきたいと思う」と回答していた。 ・留学を経験した多くの派遣生が留学体験を肯定的に捉えており、今後の進路や活動に大きく影響を与えることが期待される。 ③について ・成果目標であるコミュニケーション能力が向上したと実感できた者の割合は、実績が100%となっており達成することができた。					

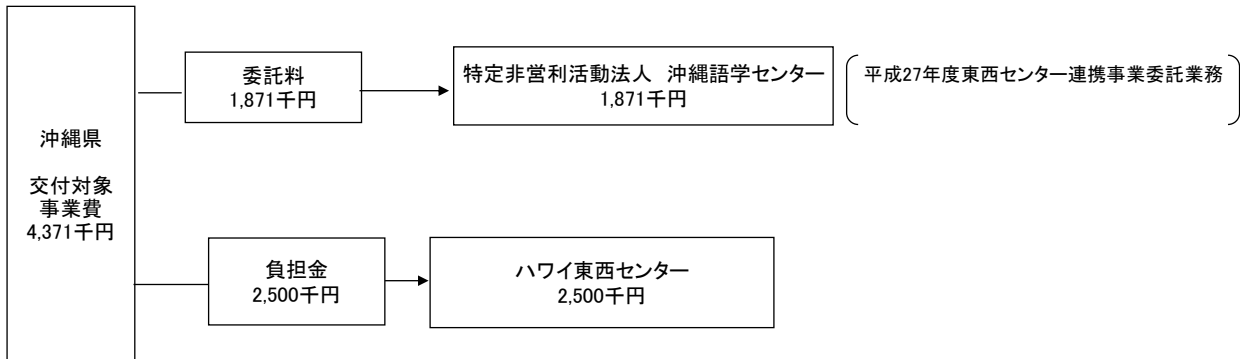
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・ハワイ東西センターへの留学の魅力を伝え、この制度を広く県民に周知する必要がある。 ・高校生のアンケート調査で「再び留学したいと思う」と回答したものが、81.4%であったが今はどちらともいえない11.4%を加えると肯定的な意見が多かった。 ・大学生等の振り返りからも、「留学の成果を今後の活動に活かしていきたいと思う」と回答したものがほとんどである。 ・消費税の増税や為替相場の変動によりプログラム費用等への影響を注視していく必要がある。 ・海外情勢の変化による安全確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外との研究や事業の実施に関心の高い企業や大学を訪問し、周知広報することにより、応募者の増加を図る。 ・事業効果については、高校生を含め学生が就職するまで一定の期間を要するため、動向調査の徹底が必要となるが、調査方法や時期等について、検討する必要がある。 ・消費税増税や為替の変動を考慮した予算立て。 ・外務省渡航情報等を参考にし、委託業者と密に連携を図り、派遣生の安全確保に努める。

1. ハワイ東西センターについて
 - ・各関係団体へポスター配布や大学での説明会の開催、企業訪問等により、ハワイ東西センターへの留学の魅力伝えて、広く県民へこの制度の周知を図り、応募者・合格者を増やして目標どおりに派遣者を確保する。
2. 1以外の事業について
 - (1) 高校生、大学生等に共通する事項:
 - ① 研修報告書の作成(全県立高等学校及び全市町村の図書館へ送付)
 - ② 平成28年度予算の消費税増税や為替の変動を考慮した積算
 - (2) 高校生について
 - ① 研修報告会の開催
 - ② 進路先調査等の実施
大学進学先(大学や学部、県内外、国内外等)や就職先の調査を行う。
個人個人で進学就職時期が異なることから、年1回程度アンケートと共に動向調査を実施する。
 - (3) 大学生等について
 - ① 動向調査
ア. 大学生や専門学校生の就職先(県内外、国内外等)調査の実施 イ. 社会人の現状報告
 - ② アンケートの実施(年1回)
ア. 今後、プログラムに参加する派遣生へのアドバイス等 イ. 本プログラムの内容等について(改善点等)

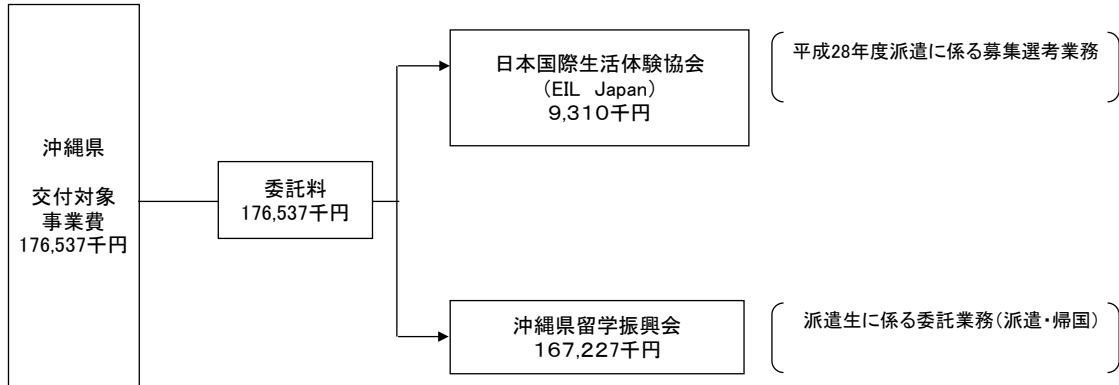
資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
180,908	180,908	144,726	36,182	0	0	0

(1) ハワイ東西センターへの派遣事業



(2) (1)以外の留学事業



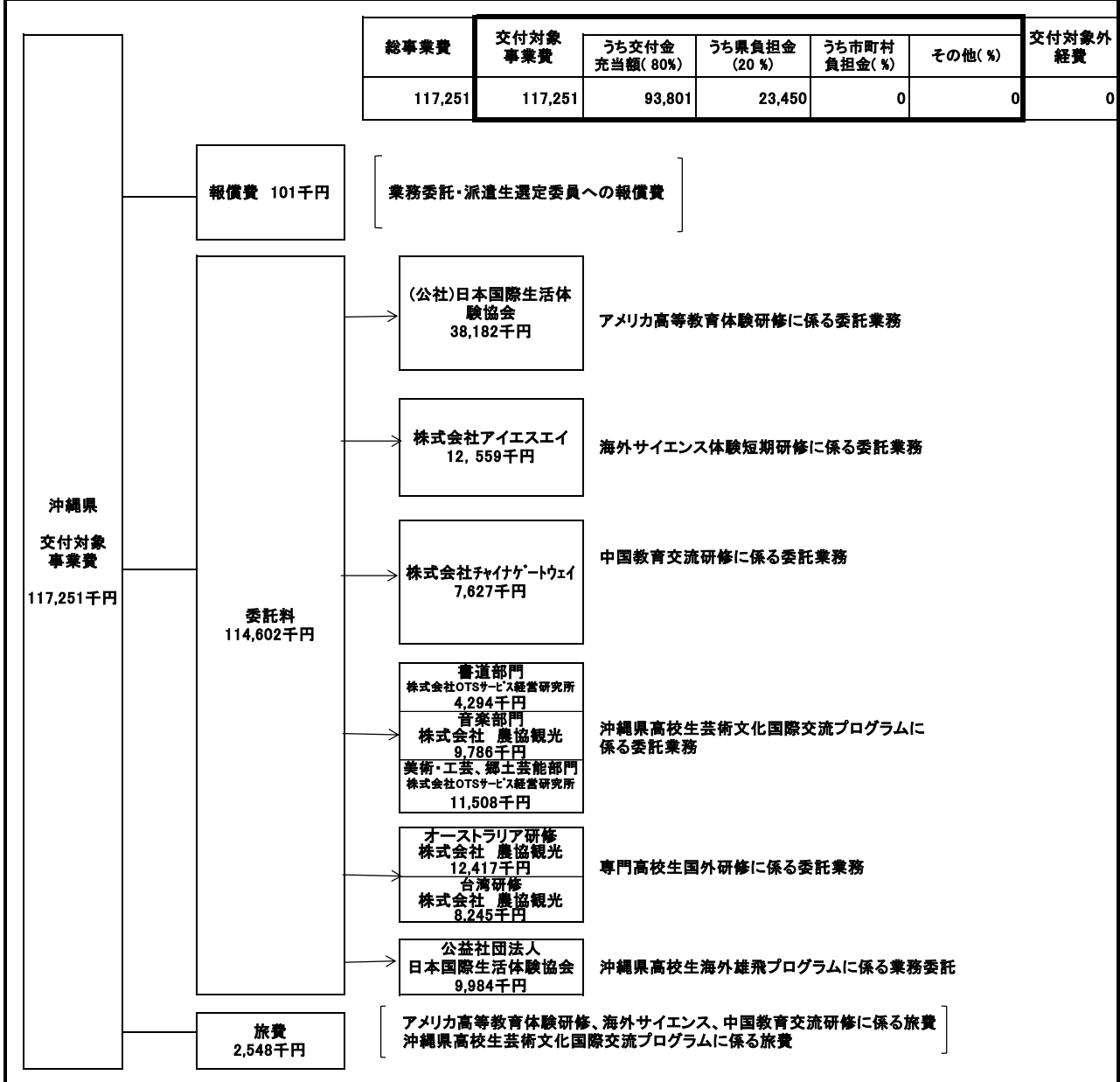
資金の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	(ハワイ東西センター) ○委託業者は、企画競争により提案内容、業務体制、予算規模などを総合的に勘案して選定しており、妥当であると認められる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○費目、用途については、金額の確定時に検査を行い、適正であると認められた。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	(上記以外の事業) ○委託先については、公募によるプロポーザル形式で決定した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	平成25・26年度派遣生の帰国に係る業務、平成27年度派遣生の派遣に係る業務、平成28年度派遣に向けての募集選考業務を行ったが、委託先がそれぞれ業務を円滑かつ確実に遂行した。

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	246	グローバルリーダー育成海外短期研修事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア			
担当部署名	教育庁 県立学校教育課・文化財課	事業実施(予定)年度	平成 24 ~ 33 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		
事業内容	グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りのため、①アメリカ高等教育体験研修、②海外サイエンス体験短期研修、③中国教育交流研修、④沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム、⑤専門高校生国外研修、⑥沖縄県高校生海外雄飛プログラムを実施する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額【単位:千円】		25年度	25年度(繰越)	26年度	26年度(繰越)	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	68,954	—	108,099	—	118,310
		(b)予算現額	69,749	—	108,099	—	118,310
		(c)増減額(b-a)	795	—	0	—	0
		(d)前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A.計(b+d)	68,954	—	108,099	—	118,310
	B.執行済額	うち交付金充当額	55,020	—	82,170	—	93,801
		C.次年度繰越額	0	—	0	—	0
		執行率(%) (B/A)	99.7%	—	95.0%	—	99.1%
	予算の状況の説明	・予算額が平成25年度から平成27年度にかけて増となっているのは、新規事業実施のためである。 (平成26年度:「専門高校生国外研修」新規実施 平成27年度「沖縄県高校生海外雄飛プログラム」新規実施) ・不用額については、受託者提示額が予算を下回ったためである。 ・当初計画の事業内容は全て実施できたことや、活動目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	高校生の短期研修派遣者数 240人を派遣。 (派遣予定国数:6カ国及び地域(アメリカ、中国、オーストラリア、シンガポール、オーストリア(ウィーン)、台湾))	目標	155人	175人	215人	240人	
		実績	155人	172人	215人	239人	
		目標					
		実績					
達成状況説明	①アメリカ高等教育体験研修(50名) ②海外サイエンス体験短期研修(25名) ③中国教育交流研修(20名) ④沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム(79名) ⑤専門高校生国外研修(40名) ⑥沖縄県高校生海外雄飛プログラム(20名) ※「国際性に富む人材育成留学事業」派遣生との合同成果報告会開催(H28.3.25 県庁4階講堂)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(33年度)
	長期留学を目指したいと考えている生徒の割合→85%以上	目標	—	—	—	85%	85%
		実績	—	—	—	98.6%	98%
			目標				
			実績				
進捗状況説明	・各短期研修実施後の事後研修においてアンケート(設問:「海外の大学等、今後の留学や就職等に興味や関心が高まったか」)を実施したところ、①アメリカ高等教育体験研修(100%)、②海外サイエンス体験短期研修(100%)、③中国教育交流研修(95%)、④沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム(96.6%)、⑤専門高校生国外研修(100%)、⑥沖縄県高校生海外雄飛プログラム(100%)という結果が得られたことから、達成できた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・現地研修において自ら進んで研修へ参加する意欲を育むため、コミュニケーションツールとしての英語力を身に付ける語学研修や異文化理解について学ばせる必要がある。 ・研修先において現地大学での講義やホームステイ先でのコミュニケーション等を考え、英語力の高い生徒を選考する必要がある。 ・テロやイスラム国の問題等、世界各地で治安上の問題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修等における外国語講師を活用した語学研修の充実や異文化理解について前年度派遣生、引率教諭による体験談から生活習慣の違い等を学ばせる必要がある。 ・選考試験における書類選考時の英語能力資格等の実績については得点のウエイトを高める必要がある。また、面接試験内容について更なる語学力、積極性を計る選考試験を実施する必要がある。 ・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、委託先の現地事務所等との連携を図る。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・二次選考面接試験等において、グループ活動やプレゼンテーション等を通して積極性やアピール力を計る試験内容を検討する。 ・事前研修等における外国語講師を活用した語学研修内容について検討する。 ・異文化や生活習慣の違い等を理化する研修内容について検討する。 ・渡航前、渡航中の派遣先国における生徒の安全確保を図るため、効果的な連絡体制強化について検討する。 ・沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム美術部門派遣先変更(H27ーシンガポール H28ーオーストリア・ウィーン) 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金 使途の 流れ、 点検、 評価 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を助案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	